

新任医師の ご紹介

平成22年4月付



小野 剛
内科(循環器)



黒田 高明
内科(消化器)



村田 泰規
内科(呼吸器)



中沢 祥子
外科



夕部 由規謙
外科



丸山 博史
整形外科



大前 由美
皮膚科



望月 優一郎
耳鼻咽喉科



嶋田 隆史
麻酔科



米谷 聡
麻酔科

News&News

マナー & エチケットセミナー 開催報告

港区医師会・当院共催により2月15日(月) 午後7時から外来ホールにて開催しました。

テーマ 患者さんへ選ばれる病院づくりをめざして

講師 人材育成研究所立川義浩先生

参加人数 73名(内外部医療機関 11名)



編集後記



政権交代後ということもあり、しかも何年ぶりのプラス改定という前ふりで注目された診療報酬の改定でした。先生方の評価はいかがでしたでしょうか。上がった部分もあれば、下がったものもあり、全体の評価についてはもう少し経過してみないと結果は見えてこないと思います。新年度も5月に入り新緑の季節になりました。4月に交代した当院各診療科の先生も大分なれてきました。ご紹介患者さんの受け入れも準備OKですので、よろしくお願いいたします。

たいま、地域医療連携室では「医療連携登録証」(左の写真)を配布中です。詳細は2ページ下段をご参照ください。

入梅前の不安定な気候が続きます。体調管理にはくれぐれもご注意ください。

Contents

～院長室から～

新年度を迎えて

院長 与芝 真彰

耳鼻咽喉科紹介

院長 徳丸 岳志

診療協力部門紹介 vol.1 看護部

看護部長 武田 早苗

新任医師のご紹介

News & News

●「連携協力医療機関 登録制度」

●第12回

せんぼ感染医療講習会開催報告

●マナー&エチケットセミナー

開催報告

vol.28
2010.5.1

せんぼだより
うえーぶ
Wave



せんぼ 東京高輪病院
地域医療・支援センター
地域医療連絡室

〒108-8606
東京都港区高輪3丁目10番11号
tel:03-3443-9576 fax:03-3443-9570
URL:http://www.sempos.or.jp/tokyo

病院理念

私たちは、病に苦しむ人や障害に悩む人に科学的根拠に基づく最善の先進的医療を迅速かつ安全に提供するとともに、人権と個人情報の保護を心がけ、相互信頼に基づく快適な医療の実践に努めます。 せんぼ東京高輪病院

～院長室から～

新年度を迎えて

せんぼ東京高輪病院
院長

与芝 真彰



4月1日より当院も新年度を迎えました。多くの企業では4月1日から翌年の3月31日までが会計年度ですし、職員の異動もこの時期に集中しますので当然1月1日の正月より4月1日の新年度初日のほうが企業にとっては重要な日です。

私も昨年4月1日に病院長として着任しました。当院の院長業を始めてちょうど1年間が経過したところです。当院は20年度は赤字でしたが、21年度は黒字が予測されており、経営に責任を持つ立場の者としてはホッとしているところです。公的病院は赤字体質になり易いのですがこれを単なる単年度の黒字にならないように、つまり黒字体質として定着させる事が今後重要だと思っています。

当院は2年後には全国に51ある社会保険病院(全社連)、7つある厚生年金病院(厚生団)と統合され、横浜、大阪船員保険病院と共に独立行政法人「地域医療機能推進機構」の一翼を担う事が法律で決められております。すでに今通常国会で本機構設立の主旨説明が行われており、おそらく6月頃には法案が通過するものと見られています。本法案の前提は「これ以上国民の負担を求めない」とされており、統合される各病院が(中には多額の赤字をたれ流している病院もあるようですが)統合までに健全経営を確立する事が求められています。

当院は以下の2つの経営指標により経営の健全性を維持する事にしています。1つはDPCの効率性の運用と2つ目は病院機能評価Ver.6.0の受審準備です。当院は昨年4月1日よりDPCを導入しました。DPCは医療費抑制という政策目標実現のために導入された制度です。DPCでは医療費を包括部分と出来高部分に分けて計算しますが、入院中の大半の検査、投薬、注射が入院料に包括されます。

DPCでは入院料は入院期間の長期化と共に逓減するため、全国の平均在院日数以内に患者を退院させないと赤字に陥る可能性があります。一方、受け皿となるべき特別養護老人ホームは入所待ちが多数あり、また、療養型病院では介護保険料のほかに、高額な自己負担が必要です。また厚労省は在宅介護を奨励していますが、主婦が働きに出ていたり、核家族化して家庭での介護力が低下している事や、独居老人の増加により在宅介護もままならないのが現状です。当院ではこの1年間に各階師長や退院調整看護師の活躍で、長期入院患者数も目立って減少しましたが、DPCはこのような深刻な矛盾を内包している事を理解していただきたいと思えます。また、今回の診療報酬改定を加味してDPC制度で収入増をはかるには救急診療、小児科、産婦人科診療の強化、手術や1,000点以上の検査処置などの出来高算定部分の収入を増やす必要があり、職員に過重な負担をかける恐れがあります。また、今回改定でも薬価基準が5.75%下げられるため、当院のように院内薬局で調剤する病院は手術料改定などによる多少の収入増は帳消しになると思われま。

このような困難な状況下でも当院は21年度に①13人のクラークの導入による医師、看護師の就労環境の改善、②入院センター、地域医療支援センター設置による病院機能の拡大等を行い、22年度からは①協力型から基幹型研修病院へ研修機能の強化による研修医育成とその他の人材育成、②ちいばす開通を契機とした診療圏の拡大の他、③病院機能評価Ver.6.0受審に向けて日常活動の強化など経営の健全性の維持のための諸施策を着実に実行し、新たな発展を日ざしています。

耳鼻咽喉科紹介

耳鼻咽喉科医長 徳丸 岳志



いつも多くの患者さんをご紹介いただきましてありがとうございます。

すでにご存知の先生方もいらっしゃるかと思いますが、23年の長きにわたり耳鼻咽喉科の部長を務めてまいりました渡辺先生が3月末を持ちまして定年退職いたしました。渡辺先生の後任には、平成16年から17年までの2年間勤務しておりました望月先生が4月から赴任し、私と2人体制で診療しております。望月先生と私は渡辺先生に比べますと、年齢が若いため心もとなく思われる先生方も多いかと思われませんが、2人とも耳鼻咽喉科専門医の資格を有しておりますので、安心して患者さんをご紹介くださるようお願いいたします。

むしろ、これからは2人の若さによる行動力を前面に出して、地域の先生方のご期待にこたえるよう積極的に診療・医療連携に取り組んでまいりますので、以前にも増して患者さんをご紹介いただきますようよろしくお願いいたします。

医師の変更にともない、4月から外来の診療体制を少し変更いたしましたので、これまでとの違いを含めてご紹介いたします。

午前中は、今までどおりに午前8時30分から11時30

分までの受付となります（5月10日より8時45分診療開始）。これまでと同じく交代で初診を担当しておりますが、今までの主治医制を一部担当医制に変更させていただきました。この方式により外来の混雑時における予約外の患者さんの診察待ち時間を少なくすることができています。予約や希望医師のある患者さんにつきましては今までどおりとさせていただきます。

大きく変更した点は午後の外来の充実を図ったことです。時間のかかる処置、外来手術を中心に編成し、ご紹介や救急の患者さんは原則として午後2時から4時の間に診察いたします。火曜日と木曜日の午後は手術日となっておりますが、1人でできる手術のときには、もう1人が外来を担当します。どうしても2人で行わなければならない手術のときには、少しお待ちいただくことになるかもしれませんが、可能な限りご紹介を受けるようにいたしますので、遠慮なくご一報いただければ幸いです。

若さは諸刃の剣とよく言われます。私どもは若いことの弱点をいつも念頭におき、若返った利点を前面に押し出して精一杯がんばってまいります。地域の先生方には今後とも今まで以上のご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

診療協力部門紹介vol.1 看護部

笑いと感動・真珠のような看護部に!

看護部長 武田 早苗



看護部は、病院職員の46%（200名）を占める一大勢力です。「看護部が変われば、病院は変わる」と言われて久しいのですが、与芝病院長がいつも数歩先を歩みますので今は、看護部の力を蓄えて一気にすぐ後ろまで迫りたいと決意。院長、後ろにご用心！（笑い）

看護の旗印は、「信頼とぬくもり」。毎年90%の利用者に満足との評価をいただきますが、「100-1=0」、一人の印象が全体を0にすることから、全退院患者さんへ「職員評価アンケート」を依頼。好印象度の高い看護師や事務職には忘年パーティーの席上で院長表彰されます。豊かな笑顔と、一步踏み込んだ関わりが決め手のようです。不安や苦痛のある入院・通院生活だからこそ、そこでの出会いが、安心や安らぎとなり、患者さん・職員との交流の中でお互いに感動をもたらす関係作りができればと思います。遺伝子研究分野で高名な村上和雄先生は「笑い、感動、感謝、生き生きワクワクした気持ち、さらには敬虔な祈りまでもがよい遺伝子のスイッチをオンにする」と話されます。「そのことが病む人の免疫力をも高めることになる」と。私たちはそんな関わりができるよう「自分も人をも輝かせる真珠のような看護師になる」を合言葉としています。

現在強化していますのは、安全な看護の推進と、患者のQOLを高めるための退院調整です。誤嚥防止対策やNSTのチーム医療の強化、特に退院調整では櫻井退院調整看護師長、MSW、病棟師長が患者・ご家族の自己決定権の尊重を第一に地域担当者の皆さんとの緊密な話し合いを鍵として活動し、支援の和を広げています。

人材育成においては、看護師研修制度を開始し、新卒看護師も研修医とともにモーニング研修に出席します。また、「病棟・外来看護体制の一元化」により、病棟看護師がその科の外来も担当する継続看護を推進します。「やさしい体位の変え方」の市民公開講座（看護師自身も腰痛減少を実感）や全職員AED習得をめざすACLS看護師や認定看護師の活動も活発です。

昨年、日本人が海外で病気や怪我をし、帰国を希望される場合の安全確保として随行する業務にも関わっています。当地の病院へ出向き、病人とともに帰国するという重責も果たし、病院とは違う面白さを見つけて活躍の場を広げています。このように、大きな視野で専門看護を提供できる選ばれる看護職として地域医療に貢献できるよう努めてまいります。

News&News

「連携協力医療機関 登録制度」

前回のうえーぶでもお知らせいたしました「登録制度」につきましては、大変多くの先生方より賛同いただきました。ご協力ありがとうございます。ただいま順次登録証をお配りしております。5月中には配り終える予定ですので申し訳ありませんがもう少しお待ちください。

また、新たにご登録を希望される先生は、地域医療連携室にご連絡（3443-9576）いただくか、当院HPより申込書をダウンロードの上お申し込みくださるようお願いいたします。

第12回 せんぼ医療感染講習会開催報告

今季の新型インフルエンザの総まとめとして3月4日（木）午後7時から外来ホールにて開催しました。講師には、慶應義塾大学病院 感染対策室 室長補佐の新庄正宜先生をお迎えし、「新型インフルエンザを経験して～診療&対策」と題した講演がありました。沈静化したインフルエンザの総括として、今後の流行予測や来シーズンに向けての対策など今年ならではのエピソードを紹介しながらの講演内容でした。

参加人数は78名（内外部医療機関 29名）でした。



▲市民公開講座 トランスポジション研究会（看護師・理学療法室技師）



▲ベトナムから患者随行業務を終え帰院した鮎澤医長（右）と石崎看護師（左）